

# ささえあう

2010年  
7月25日  
第12号

事務局 大分市大字森679-6 リフォーム夢舎内 TEL・FAX097-527-5443

## 「知らない」から「働ける」へ

4年前、結成の時に、私は「人は奇異なるものに恐怖を抱く」というラカンの言葉を紹介しました。人は精神疾患について余りにも理解がないのではないか。知らないと恐怖を抱く。まず恐怖を取り去ろうという呼びかけでした。

いま、みなさんの話を聞いていて、4年間やってきたことは無駄ではなかった、方向性は間

ついて「もっとこうしていけばいいのではないか」という提案も行いました。時にはネゴシエーター（交渉人）になったこともあります。そしてそれは、地域の“コーディネーター”（調整・まとめ役）を見出し、生み出していく取り組みでもありました。

これらの活動がどれだけ活かされてきたのか。今日の皆さん方の言葉が、伝えてくれていると感じています。地域で、それぞれの当事者

## 第5回総会 「ネットワーク これからの方向性」

# 「調査・提案・ネット」で地域づくりへ

別府大学文学部人間関係学科准教授 三城大介



違っていなかったと感じました。

今日は「技術は思想を実現する」という言葉をお伝えしたいと思います。私たちの「技術」というのは、精神障がい者それぞれの方の思いを実現するため

のサポートのことです。私たちの「思想」とは何なのか。それは「心の病を持っている人たちと一緒に働ける」ということだと思っています。

## 調べ、つなげ、地域をつくる

これまで4年間、ネットワークは何をやってきたか。私たちは、まず“リサーチャー”（調査する人）となって、地域の中で様々な調査を行ってきました。そして“ネットワーカー”（つなぐ人）になって、人と人、人と情報、人と技術、人と制度を結びつけてきました。時にはオンブズマン（行政観察者）的に、制度や行政に

を主人公に、私たちがそこにどう関わり、地域の人たちとどうつなげるかを考え、地域をつむぎなおしていくことの大切さを感じながら、やってきてよかったなという気持、そしてこれからもやって行かなければという気持を強くしています。それはうれしいことだと感じています。

## 農業にも希望が広がって

農業調査も行いました。「農業はとて素晴らしい」という回答が多くありました。何にいいのか、「当事者の体力づくりにいい」、それだけではなく「メンタルな面でもとて素晴らしい」という回答をたくさんいただきました。同時に、経営基盤、販売ルートなどの課題も明らかになりました。これは2次調査を含めて、取り組みをしていきたいと考えています。

私たちは、就労だけがすべてではないと思っています。当事者の一つ一つの思いをどう受けとめることができるか。「全員がフルタイムで」

ではなく、それぞれのステージにいる方に見合った仕事や居場所、そのための支援や連携を、その地域に依りてどうつくっていただけるかがとても重要だと考えています。そのために、私たちはもっと「リサーチャー」になり、もっと「ネットワークャー」になり、そして「コーディネーター」になっていくことが必要だと考えています。

### 地域にとって大切なこと

今後、最も大切な課題は何なのか。地域では皆さんいろいろなことに取り組まれています。それを、それぞれの地域にいる当事者を中心にしながら、誰がどう結びつけていくのか。それぞれの地域のキーパーソンを見つける、あるいは一人ひとりが地域づくりのキーパーソンになっていくことが必要だと考えます。

当事者が安心して暮らせる地域をどうつくる

か。それは、過疎化・高齢化した地域、人間関係が希薄になった地域をつなぎ直すことにもつながります。「朝市」の取り組みはとても大きなヒントだと思います。地域をどうコーディネートしていくのか、それをみんなで考える、そのための場をつくっていく、そういうコーディネーターが求められています。

### つながるプロフェッショナル

ネットワークには、当事者がいて、家族がいて、行政がいて、職業センターがいて、雇用のプロフェッショナルがいて、様々な団体がいて、医療関係者もきてくれていて、いろんなところにつながってきています。この取り組みは今年度で5年目になりますが、これから5年は頑張りたいと思います。皆さん、一緒によろしくお願いいたします。

## 盛会でした 第5回総会

### 「積み重ねですばらしい仕事」－支援の輪をもっと

第5回総会は6月19日、別府大学メディア教育センターで開催されました。131人が参加し、支え合いながら働く場を広げ、安心して暮らせる地域をつくってこうと、熱心な意見交換を行い地域のフォーラム開催など新年度の方針を決定しました。

藤波代表は「この4年間、いろいろな活動を展開してきました。多くの方のご支援に感謝したいと思います。精神障がい者は働けます。働きたい気持ちを持っています。そのことを知ってもらいたい。実際に働き始めて、働き続けています。積み重ねのなかですばらしい仕事ができるようになるのです。これからも、“企業向けマニュアル”の作成などを通して、社会や企業のなかに理解を広げていきたい」とあいさつしました。

新年度の取り組みについては、安部事務局長が、①就労を支える取り組み②地域にネットワークを広げる取り組み③広報活動の充実－などをあげ、一つ一つの事例を大切に支援しながら、同時に「新たな地区フォーラムの開催」、「企業向けマニュアル作成」、「第2次農業調査」などに取り組んでいくことを提案。全体の拍手で確認しました。

総会に引き続いて記念行事に入り、「ネットワーク4年の歩み」を白石事務局次長が報告しました（7ページ参照）。また、「わたしのいま・今後の課題」は安部事務局長の司会で、多くの人から切実な思いが語られました（3ページ参照）。最後に、三城副代表が「ネットワークこれからの方向性」として、まとめと提案を行い、「これから5年は頑張ろう」と呼びかけました（1ページ参照）。



「よう頑張ったなあ」「夢や目標を実現するために」「希望感じるように」…

# たくさんの思いが繋がって

第5回総会 — わたしのいま、今後の課題 司会 安部綾子

## 当事者の声

### 仕事に慣れるのは大変

・作業所に通っていますが、昨年、竹工藝センターで委託訓練を受け、その後一般就労したんですが、働いてみて作業所とは違うなと感じました。仕事場での仕事は、時間はあるんですがスピードが速くて夜はバテてしまって、仕事に慣れるのが大変です。

### 「ようがんばったなあ！」

・4月の終わりからヘルパーの研修を受け、終了しました。今までは、うちの親は何かやろうとすると「できないだろう」「続かないだろう」といってたんですが、ヘルパーの実習が終わってから、お世辞を言わない父なんですが、「あ、あなた、ようがんばったなあ」と言われました。ひのでに通ってから入院しなかったことと、みんなからささえられてここまでできました。私は、作業所に偏見を持っている人に、チームワークとか人とのつながりとか人を大事にする気持ちがわいてくるところだと思う。それが今回のことですごくわかりました。

### 18年頑張ってるボーナスも

・事業所でをしています。疲れませんが、いろんな仕事ができるようになりました。事業所を利用して18年になります。最初は収入が2000円位だったんですが、今は生活支援員として働くようになり、ボーナスももらえ、年金と合わせると生活できるようになりました。

### 継続して仕事をしたい

・継続して仕事ができることを望んでいます。

## 質問と回答

質問 私は就労に向けて頑張っているところですが、病気によって仕事の継続に違いが出てくることあるのですが、それについて教えてください。

回答（三城） 調査の結果では、病気の違いによって継続に差はなく、（支援がない場合）多くの方が3ヶ月、6ヶ月で継続が難しいという結果になっていて、ほとんどの方が3年以上の継続が難しいという結果が出ています。それは全国的にも余り変わらないと思います。

回答（青柳） そういう傾向はあるんですが、ご本人がしっかり診察を受けて、病気が安定しているかどうか継続に大きく影響するということがすべての病気について言えると思います。あとは、半日位から働き始めて少しずつ増やすなどの配慮をすとか、医療機関やハローワーク、職業センター等の支えを受けていると長く働けるということが、最近の一番新しいデータでできていますので、そういうことを参考にしていればと思います。

## 家族の声

### 家族会から取り組み広がる

・うれしいのは、家族会の活動を続けるなかから、輝くピアホーム、三角ベースなど取り組みが広がってきました。家族会では障がいがある子どもたちにどう対応するかという勉強を主にしています。最近、新しい人が入ってきましたが、家に閉じこもっている人も3人位いて、何とかできないかなという問題があります。我が家は働くまでいかず、子どももできたので、家庭の“主夫”みたいなことができるようになり、それでもいいと思っています。

### 就労以外の悩みも多い

・家族として会にも所属していますが、支援センターで「家族教室」を行っています。就労に結びつけばと願いながら支援しているんですが、就労以外の悩みも多く、家族教室ではいろいろと聞いているところです。身近に就業・生活支援センター太陽ができ喜んでいますが、加えてハートブリッジのように総合的なケアを

めた支援をしていただける場ができることを願っています。

### 「希望がある」という感じに

・最初から参加していますが、「支えがあれば働ける」と言われても、実際にいい情報が見えてこなくて、「就労できる人はいないよね」と否定的な感じしか持っていませんでした。でもこの4年間で、いい事例がたくさん聞けるようになって、感激しています。当事者にとっても家族にとっても光が見えるような感じで、問題はいっぱい抱えていますけど、「希望がある」という感じになってきて、ネットワークはとてもありがたいと思っています。

#### 首藤工コ農園

家族 昨年の大分フォーラムに参加して、首藤工コ農園を知って、今大変お世話になっています。週1回ですが、記憶障害があるため、私も一緒に行っています。30代なのでエネルギーを持っているので、やるべきことがあることが

大事。作業所はありがたいのですが、本人は一般就労を望んでいます。家族は本人の強さを求めがちですが、何か方向を見いだしたいと願っています。

首藤（首藤工コ農園） 私の農園は、精神障がい者が農業で自立できるよう支援することを目的に始めました。今二人通ってきていますが、現実には厳しく、これ以上規模を広げられない状況です。週に1回から2回なので、大した支援はできていません。農業を続けていくためには、技術と販売が必要ですが、それはこちらでできます。いま農業に携わっている障がい者の方はそれなりにやりがいを感じていると思います。当面現状維持で行きたいと考えています。

#### 支援者の声

### 当事者の思い大切に

・障害者就業・生活支援センター太陽で主に就業支援を担当しています。まずは当事者の思いが大切だと感じています。利用者は精神が7割

## “心の居場所”を見つけることから

“自分の仕事”が喜びに、そして社会に出て行く力に

ふれあいステーションひので 藤波 智

ふれあいステーションひのでで生活支援員をしています。病気になってしまった人の思いは何なのかということをつつも感じ取るようにしています。何がこの人に混乱を来してしまっているのか、その人の何が満たされたら安定してくるのかと思いながら、通ってくる人と接しています。

通い始めても、連続して通えるようになるまでに少々時間が必要です。ここが自分の心の収まり場、“心の居場所”となるまで声かけをしながら、その人が安定してくるのが喜びです。

「何が自分のする仕事なのか」を見つけたとき、喜びを持って毎日暮らしていきます。お茶をくんであげるとか、新しい人に伝えることとか、いろんな喜びを見つけながら、安定したものを見つけていく。それがやがては、一般社会に送り出すことにつながると実感しながら東奔西走しています。社会に出て行ったときに、職場のなかで自分が何をしていたらいいかをつかむ練習、こうしたらいいんだというモデルを、ひのでのなかで自分の力で見つけ出すことができるようになったときに、場所を変えても生きていけるんじゃないかと思っています。

家族のなかでも、病状が悪化しているときには会話も成り立たない状況もあります。家族はハラハラしながら、何がこういう状況にしているんだろうと探していくわけですが、病気になった本人を捜し、見だしていくことが、家族にとっても生きていく力につながると思っています。

利用者の心の安定が、喜びがそのまま生活支援員としての自分の喜びになっているような気がします。利用者が喜びをつかみ、しかもそれが生産的なものであるように、これからも取り組んでいきたいと思っています。

くらいで、誰でも利用できます。

### 認知症の支援に取り組み中

・大分市の城東包括支援センターでアルツハイマーという認知症の方の就労支援のモデル事業をどうやっていくかということで参加させていただいています。40代、50代で認知症を発病した方を支援していくためには地域のネットワークが必要ということで、このネットワークがどのような取り組みをされているか参考にしながら立ち上げていきたいと思っています。

### NPOで引きこもりの支援

・今日、会員になりました。和歌山で精神障がいの方が立派な梅干しを一個一個どれほど丁寧に商品化しているか、そして働くことのすばらしさを三城先生から伺っていました。私は引きこもりのかたの支援をするNPO法人をやっています。引きこもりの場合、就労にはほど遠い段階で、親の方は「就労、就労」と言うんですが、本人の方は就労にいたるまでには大きな壁があり、苦慮している段階です。しかしながら、ネットワークが道筋をつけてくれているお陰で、私たちももしかしたら引きこもりの彼らたちに何らかの道があるんじゃないかと思って参加しました。よろしくお願ひします。

### 本人の夢や目標を実現するために

・ハートブリッジでは若い人が多く就労をめざしています。決まった方向があるのではなく、その人がどういう目標を持って来ていただいたのかを大切に、その人の夢や目標を実現するために、会社のスタッフや病院の先生、ハローワークなどいろんな人と関わりを持ちながら、本人が主人公になれるような支援をめざしています。支援するなかでわからないことや悩むことが多いが、ネットワークがあるので、いろんな人のアドバイスをもらいながら仕事ができ幸せだと感じています。

### 農業で地域との交流も

・別府市の「星座オリオン」です。就労継続B型でやっていますが、利用者を一人でも多く就労させてあげたいと考えています。ワークトレーニングに参加する人もいるし、オープンで仕

事に就いた人もいて、これまでに5、6人が就労しています。昨年の6月にはJA別府から土地を借りて農業に取り組み、苗の販売などもしていますが、これがうまくいって周囲の地区の人たちとの交流も進み、統合失調症に対する偏見も少なくなってきたように感じます。今、トマト、なす、キュウリ、里芋、サツマイモ、タマネギなどを植えて頑張っています。偏見をなくすために、地域の人たちと交流が広がればいいなと日夜頑張っているところです。

### トラックで地域に販売も

・由布市の「一歩一歩」です。作業所をしていますが、大半の人が一般就労を希望しています。このため、どういう仕事があるかなどの情報を得るためにネットワークに参加しています。作業所では二ラの選別や箱折り作業をしています。月に一回は地域の清掃活動もして、去年は地域住民と茶話会を開いて、カラオケや腹話術など交流しました。畑で野菜も作り、みんなでトラックで地域の住民に売って回っています。

### 「業務遂行援助者」に助成

・総合雇用推進協会です。“事業仕分け”で国の事業に変わりましたが、効果的な制度を紹介します。資料に掲載していますが、「業務遂行援助者の配置」事業では、援助者を配置すると障がい者1人あたり月額3万円支給され、1人の援助者が3人まで援助できます。早めに申請をしてください。また、今年の8月1日にはホンダ太陽でアビリンピック大分県大会が開催されます。積極的に参加してください。

### 行政の声

### 「精神ネット」意義感じる

・自立支援法で「三障がい一本化」という流れが非常に強くなり、それはそれでいいところもあるんですが、精神については知的とか身体と比べて遅れている面もありますから、こういう精神障がい者に特化したネットワークの立ち上げは意義があると思います。私も参考にさせていただきたいと考えて、行政の立場ですがアドバイザーという形で参加させていただいています。(県障害福祉課精神保健福祉班)

## 県も「精神」雇用を開始へ

・精神障がい者の就労を進めていくときに、企業の理解も必要と思うんですが、企業の理解を進めていくために、大分県としても企業のお手本になれるようにということで、以前から知的障がい者の方の雇用は進めていたんですが、今年度から精神障がいの方々の県での実習をスタートさせていきたいと思っていますので、そのためにも皆さん方と連携して進めていけたらと思っていますのでよろしくお願いします。（県障害福祉課自立支援班）

## 県相談支援センターも就労支援

・精神科デイケアのなかで就労を担当して、働きたい方を支援しています。今週も一人仕事が決まりました。目の前の方一人ひとりを企業につなげていけたらと思っています。（大分県こことからだの相談支援センター）

## 精神保健福祉士と連携

・以前は、病院から保健所に連絡が入り、保健所でデイケアも行い、保健所と家族会の皆さん

が力を合わせてという取り組みをしていました。今、お話を聞かせていただいて、それぞれの家族会の皆さんが力を付けてこられて、協力関係も広がっているということで、とてもうれしく思っています。大分市では医療機関が30近くあり、関係機関も多いので、今の保健所の役割としては情報を皆さんに届けることが大切と考え、ネットワークづくりに取り組んでいます。精神保健福祉士がこの10年間で医療機関にいるようになったので、医療機関につなぐ相談が多くなっていて、医療機関につなげば精神保健福祉士さんがその後、デイケアや訪問看護などにつなげていただいています。社会復帰は就労だけではなくていろんな段階がありますが、就労の相談を受けることも多くて、そういうなかでいただいた情報を皆さんに伝えさせていただきたいと思います。（大分保健所）

## 学生の声

・当事者や家族の方の話が聞けてよかったと思います。

## 医療関係者の声

# 「所属・交流・“できる”という感覚」を持てれば 一人ひとりの違い・個別性を大切に

佐藤病院 小野賢一医師

病院の講習会で三城先生と出会い、話が合いまして、一緒に参加してやっていきたいと思うようになりました。日々の診察という仕事のなかで、大変さを感じています。

同じ疾患でもいろいろな方がいます。障がい者ということで一括りにすることは危険があり、一人ひとりの違い、個別性をよく見ていくことが大切です。自分からどんどん仕事を見つけていく人もいるし、もうこの人は仕事してみたらと思う人が全然モチベーションが上がらないこともあります。就労を考える場合、全員が動機付けも含めて、一人ひとり違うんだということを考えなければならぬと思います。

問題は三つあると思います。一つは、「どこかに所属している」という感覚を持ってないということです。仕事に就けない、学校にも行けないということでそういう感覚になりがちです。二つ目は、「仲間が少ない」。一日の中で話をしているのが家族だけ、時間も少なくなります。三つ目が、「自分にもできることがある」という感覚ができにくい方が少なくないことです。

そういう意味では就労というのは、「どこかに所属をして、多くの人と交流を持って、自分もできることがあるんだ」という充実感を持つということがあると思っています。ですから、就労できるといいんですけど、就労に至らなくても、この三つの感覚をつかめれば社会復帰につながっていくのかなということを臨床医の感覚として持っています。

# いろいろな人の協力で継続

当事者の思い—家族の思い—支援の連携—地域のネットワーク

第5回総会報告 — ネットワーク4年の歩み 報告 白石一徳

2006年にネットワークがスタートしました。その前年に厚労省委託の「九州・中国・四国ブロック就労推進セミナー」が行われたことがきっかけです。その実行委員会が行った調査で、当事者は『働く場を持ちたい』という願いが一番強いことがわかりました。私たちは、その思いを受けとめて、発足以降、いろいろな団体や行政などの協力をいただきながら、県内のいろいろな施設等を訪問し紹介を行ってきました。



相談できる専門家”に期待が大きい」、  
「支援機関の利用が3割未満と少なく、就労は長続きが難しい」—などの現実が明らかになり、ネットワークは①地域で精神障がい者を受け入れる“受け皿”の充実②地域サービスの提供者と利用者の連携③精神障がいを「オープン」にしても差別されず、支援を受けられる職場環境づくり④就労への意欲と支援制度の結びつき—を課題として、取り組みを進めることにしました。



る点を学んだ気がします。

翌年3月、紀南を訪ねました。多くの施設を回りましたが、働いている当事者が自信を持って説明してくれたのが印象に残っています。給料を貯めて今度沖縄に行くという話もしていました。就労と生活が充実することによって、就労も継続するし、なおかつ自信もあふれて自分たちのやりがいが出てくるんだということを感じました。



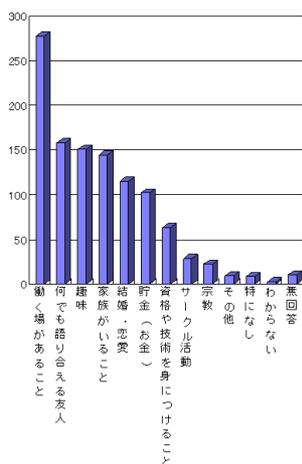
支援は、センターが中心になって、当事者、家族、事業所、企業、医療、行政などの連携と情報の共有が行っていました。また「ワーカーズクラブ」などの当事者組織も、センター内に作られていました。立派なグループホームにも驚かされました。環境もすばらしかったんですが、地域が当事者にとって住みやすいのかなとも思いました。興味のある方はぜひ行ってください。

この取り組みを踏まえて、新たな取り組みが始まりました。2008年の総会では「広げよう！就労の輪—地域からの報告」として、3つの新たな取り組みが報告されました。

そして同年12月、和歌山県の紀南就業・生活支援センターの北山所長を迎えてフォーラム「支援があれば働ける」を開催しました。人口14万人の地域で10年間で400人を就労させた10年で北山所長は、「精神障がい者は人間性はすばらしいし、潜在能力もあるのに就労するとみんな帰ってくる。その人の障がいの特性と性格を把握して支援していくことで、働けるようになった」と話しました。この時に私は、大切な考え方と注目す



M-1 今後、生きる張り合い(生きていく上で大切なもの)になるもの



2007年には当事者512人を対象に面接による『第2次調査』を行いました。その結果、「『地域で暮らしたい』思いが強いが“受け皿”が足りない」、「いつでもなんでも

新たな仕事づくりの取り組みが報告され、高齢化や過疎化する地域に結びついた仕事の可能性が提案されました。

一つは高齢化する団地での「朝市」、もう一つは高齢者介護の仕事

への就労です。また、環境や食の安全につながる農業などの仕事の可能性も指摘されました。今もこの活動は続いています。「朝市」は5つの施設が参加し、野菜や日用品、焼きたてのパンなどを提供しています。ハートブリッジ、ぶらぼうファームも働く人を増やしながらかつたな展開を行っています。

2009年は、県内3地区で“地域フォーラム”を開きました。大分市、別府市、竹田の3市で開催しました。合わせて500人以上が参加し、当事者・家族、支援者、行政、企業、市民など幅広い人たちが「支援があれば働ける」ことを実感し、またいろんな働き

方やそれを支える人たち・支援機関があることなどを実感しました。

大分フォーラムでも、「まじめで『人の役に立ちたい』という気持ちが強い。でも機会が少ない」、「地域でのコミュニケーションが大切」、「ケアの仕事に向いている」、「安心できる地域、安心できる職場になれば」、「課題は多いが、一歩を踏み出すことが大切」いろんな声が出されました。参加した感想のなかでは、「地域・親類の偏見の中で、ひっそりと生活している。当人は病識なし、治療・投薬絶対拒否で困惑、悩んでいる。本日のフォーラムに参加し、当人との接し方、家族の接し方、押しつけでなく当人の考えも尊重し、自立に向けて努力しよう」と勇気づけられた。地域、親類の今後の接し方を考えようと思う」という声が残りました。まだまだ踏み出せ



ない問題があって、一人で悩んでいる家族や、なかなか表に出せない、どこに行けばいいのかという方が大分市内でもいるんだなということが感じられました。



最後に、4年間の歩みを振り返って感じるんですが、この4年間、いろんなことがありました。走り続けていると、時々止まって出発点を振り返ることが必要だと感じています。ここにいる学生さんたちも同じだと思いますが、最初はみんなどこから手を付けばいいのかかわからないと思います。でも続けることでいろんなことが見えてきました。今後もこの活動を継続することが大切だと思います。ここにいる皆さん、そしていろんな方々の協力で継続していくことが大切だと思っています。

社会福祉法人  
そよかせ



## ふれあいステーション ひので

就労継続支援B型・就労移行支援事業所

### “心の居場所”・“自分の仕事”を見つけるために



- 自分の心の収まり場を見つけることから始めます
- 「何が自分のする仕事なのか」を見つけたとき、喜びを持って毎日暮らしていけます
- 自分の力で安定したものを見つけることによって一般社会に場所を変えても生きていける。そう思いながら支援しています。

「人とのつながりとか人を大事にする気持ちがわいてくるところです」(利用者の言葉)

速見郡日出町字仁王山3531-24 TEL 0977-73-1326 FAX 0977-76-7555 メールhinode@po.d-b.ne.jp

# 2010年 地域フォーラムの報告

## 竹田フォーラム

### 企業や商店街からも報告-「地域の理解が大切」

2年目の今回は地元中心に実行委員会が設置され、準備もすべて地元が担って、本年の2月26日に竹田市総合社会福祉センターで「精神障がい者の地域生活と就労を考える竹田フォーラム」が開催されました。参加者は103名で、内訳としては民生委員30名、自治委員2名、市議会議員(社文委)4名など、昨年とは違うメンバーの参加もあり、地域にとって「一歩前進」の有意義なフォーラムになりました。



第1回フォーラム以降の1年間、竹田市では地域に出て行く相談活動や商店街での話し合いの実現など、手応えのある活動が積み上げられました。第2回フォーラムでは、当事者や事業所の他、受け入れ企業や商店街からの報告も行われ、「企業の話がとても新鮮だった」「地域の人も理解しなければ」「当事者の思いと支援者の見守りの大切さが伝わってきた」など、積極的な感想が多くありました。

ネットワークからは、藤波代表があいさつ、三城副代表が基調提案とシンポジウムのコーディネーターを行いました。3月10日に反省会が行われ、「来年も続けたい」「豊肥地区全体に広げたい」などの方向が確認されました。

竹田市行政の積極的な姿勢がフォーラムと地域の精神保健福祉行政を推し進めているように思われます。

## 大分フォーラム

### 「地域の福祉資源がつながれば」- 切実な思い大切に

大分市内の関係者を中心に実行委員会が設置され、実行委員長は森崎副代表、事務局長は白石事務局長が担当しました。大分フォーラムは158人が参加して3月6日にアイネスで開催されました。参加内訳は障がい当事者42名、家族16名、支援関係者29名、医療関係者13名、企業関係者17名、行政関係者15名、一般・その他21名、無記入者5名でした。



参加者からは、「相談できる人がいない」、「生まれたからには一度は結婚したい」、「最低賃金を保障されないのはおかしい」など切実な声が寄せられ、支援者からは「出勤できなくなった場合、どう支援すればいいか」、「企業の中にキーマンが必要」、「地域にある資源がつながるといい」などの具体的な質問や提案がありました。

シンポジウムは「みんなで話そう」をテーマに掲げ、会場内に数名がマイクを持って入るなどの試みを行いました。十分に話を引き出し得たとは言えませんが、今後に生かせる試みだったと考えています。なお、企業1372社への案内発送と開催経費の主要部分を担っていただいた(財)大分県総合雇用推進協会に感謝いたします。

## 「農業の実態と可能性の調査」の報告

今年1月に調査票を発送し、2月から3月にかけて回答を集約しました。調査対象は70の事業所・企業で、最終的に46事業所と4つの応援団企業から回答がありました。

25事業所が「農業を取り入れている」と回答。取り入れている事業所の目的は「当事者の回復のため」が16事業所64%で最も多くなっています。利用者への効果としては、「治療・回復につながる」が12事業所48%、「利用者に適した仕事」8事業所32%で、96%が効果があると評価しています。事業所にとっての効果は「ある」が23事業所92%で、「ない」はゼロ、今後の方針は「拡大していく」が12事業所48%、「現状維持」が13事業所52%でした。

しかし、抱えている課題は多く、「経営的に困難」、「販売ルート」、「利用者への労賃支払い」をあげたのがそれぞれ13事業所52%、「土地の確保」が12事業所48%、「利用者への指導が困難」が10事業所40%でした。

就労先を拡大するためにも、より具体的な問題点の把握と解決に向けた取り組みが必要になっています。このため、別府大学の三城先生を中心に第2次調査を行う予定です。

### ● 役員の交代と補充

役員については改選の年ではありませんが、転勤などのための変更や補充を行いました。新たに、以下の方が理事に就任されました。

小野賢一（佐藤病院・医師）、古賀朋和（大分県精神保健福祉士会）、末光正典（博愛地域生活支援センター・センター長）、村上寿一（大分障害者職業センター・主任障害者職業カウンセラー）、横谷祐介（大分障害者職業センター・カウンセラー）（敬称略）



就任あいさつをする新役員

### 編集後記

第5回総会でネットワークの毎月の会議の様子が報告されました◆「家族ケアの要望がある」（医療関係）、「出張デイケアを開始、当事者、家族、支援者に向けて現場を訪問」（ハートコム）、「実際の対応は『これもありあれもあり』で、障害者本人に対しても、親に対しても緊張して対応してしまうのが現状」（大分保健所）、「家族の方への対応の仕方、家族が安定すれば患者も安定する。3ヵ月に1回ファミリーデーを設け親の横のつながりを持たせる」（医療機関・デイケア）、「企業の現場では上司を説得できる“指針”がほしい」（企業）、「生活保護を受給していると、どうしてもモチベーションが下がる」（事業団）、「企業と病院の連絡・連携が必要」（行政）、「精神障害者は予測できそうでできない。一箇所だけで支援するのは難しく連携が必要。情報を整理してマニュアルを作るべき」（職業センター他）、「こんなに専門職の方たちが真剣に考え取り組んでくれていることを、親の立場で関係者に伝えていきたい」（家族会）◆1回の会議でこれくらいの意見が出されます。すぐに答えが出ないものも多くあります。意見が違ってもあります。それでもみんなの心の中に課題として意識され、「どうすればいいのだろう」と考え続けられています◆この4年間は、いろんな人が立場を超えて集まることの意義の大きさを実感する日々でした。不安を持ちながら暮らす人が一人でも少なくなるように、そして「希望がある」と感じられる人が一人でも増えるように、一日一日、一つ一つの会議を大切にしながら5年目のスタートです。（〇）